

令和5年度 近畿建設リサイクル表彰 応募要領

建設副産物対策近畿地方連絡協議会では、毎年、近畿地域で建設リサイクルに関する取り組みにおいて顕著な実績を挙げている個人・団体・事業所等を表彰する「近畿建設リサイクル表彰」を実施しております。

このたび、令和5年度の募集を致します。特に、従来から行われている建設リサイクル活動のみならず、新しい取り組みを実施して、他の模範となるような案件がございましたら積極的な推薦をお願い致します。

◇応募の締め切り 令和5年9月25日（月）必着（厳守）

◇審査スケジュール

1. 審査 : 令和5年12月（予定）
2. 審査結果の通知 : 令和6年1月中旬（予定）
3. 表彰式 : 令和6年1月下旬（予定・状況により中止等の場合あり）

◇提出先及び問合せ先

建設副産物対策近畿地方連絡協議会事務局

〒540-8586 大阪府大阪市中央区大手前3-1-41 大手前合同庁舎

電話：06-6942-1141（代） FAX：06-6942-7825

近畿地方整備局 企画部 技術調査課 増田・平田

<https://www.kkr.mlit.go.jp/plan/fukusan/index.html>

主催 建設副産物対策近畿地方連絡協議会

<目 次>

表彰制度の概要、応募方法等	1
推薦一覧 様式	7
推薦書 様式	8
候補者の概要書 様式	9
<参考>建設リサイクルの取り組みの例について	5

表彰制度の概要、応募方法等

1. 目的

近畿地域において、建設リサイクルの推進を自主的、かつ積極的に取り組んでいる個人、団体、又は事業所等に対し、建設副産物対策近畿地方連絡協議会がその活動を賞し、奨励することを通じ、3R（リデュース、リユース、リサイクル）の取り組みを充実させ、廃棄物などの循環資源が適正・有効に利用・処分される「循環型社会」の構築にむけた行動の輪を広げることを目的とします。

2. 主催：建設副産物対策近畿地方連絡協議会

3. 募集対象

循環型社会の形成に向け、近畿地域^{※1}における建設リサイクルに関する実践活動、事業活動、教育啓発活動、調査研究活動、その他これに類する活動に取り組む個人・団体・事業所等（以下、「候補者」といいます。）を対象^{※2}に、その取り組み^{※3}が近畿地方における循環型社会形成に対して有益かつ、他の事業所等の模範となる優れたものを対象とする。

※1：近畿地域とは、福井県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、三重県の一部（伊賀・名張市）を指す。

※2：表彰の対象となる具体的取り組みの例は<別紙2>を参照。

※3：建設リサイクルに関する活動を応募時点で行っているものが対象。〔工事〕については令和3・4年度以降竣工工事又は応募時点で建設リサイクルに関する工事（工種）が完了しているものも対象とする。

※4：〔一般〕については、〔工事〕以外のものを対象とする。

4. 賞の種類・部門

受賞者は、建設副産物対策近畿地方連絡協議会の各構成機関、各府県産業資源循環協会（産業廃棄物協会）、府県解体業協会（組合）、一般社団法人 日本建築学会 近畿支部などから推薦のあった候補者のうち、次に設ける表彰区分ごとに審査委員会にて選定する。

(1) 大賞

(2) 奨励賞（各賞の対象部門は、次のとおりです）

部門の名称	対象分野
発生抑制・搬出抑制部門	〔一般〕 ・発生抑制・搬出抑制の取り組み及び啓発活動等 ・発生抑制・搬出抑制に関する研究開発、教育啓発活動等
	〔工事〕 ・建設工事現場で取り組まれている発生抑制・搬出抑制の取り組み及び啓発活動等
再使用・再生利用部門	〔一般〕 ・再使用・再生利用の取り組み及び啓発活動等 ・再使用・再生利用に関する研究開発、教育啓発活動等
	〔工事〕 ・建設工事現場で取り組まれている再使用・再生利用の取り組み及び啓発活動等
再資源化部門	〔一般〕 ・再資源化の取り組み及び啓発活動等 ・再資源化に関する研究開発、教育啓発活動等
	〔工事〕 ・建設工事現場で取り組まれている再資源化の取り組み及び啓発活動等

※〔工事〕分野の取組みにおいて単体及びJVで元請けとして受賞された場合、近畿地方整備局の工事発注時の総合評価落札方式において、加算点があります。詳細は、各工事の入札公告をご覧ください。

5. 募集方法

本表彰では、下記①～④の推薦機関を通じた推薦方式により「3. 募集対象」に定める候補者を募集します。

- ①建設副産物対策近畿地方連絡協議会の構成機関
- ②各府県産業資源循環協会（産業廃棄物協会）
- ③各府県解体業協会（組合）
- ④一般社団法人日本建築学会 近畿支部

※1 ①～④の機関からの自薦も可能。

※2 「研究開発、教育啓発活動等」については、①～④の推薦機関の推薦によらない個人又は個別団体からの自薦も可能とします（大学等研究機関、研究者による自薦）。

※3 有識者と工事業者の連名応募も可能とします。

6. 応募の方法

(1) 提出書類

推薦機関は、この応募要領に定める様式により、①推薦一覧、②推薦書（候補者1件につき1通ずつ作成）、③候補者の概要書（候補者に作成を依頼し、内容を確認して下さい）を提出して下さい。併せて、活動の様子がわかる写真、参考資料（パンフレット等）を添付して下さい。提出書類の様式、提出部数等は下表をご参照下さい。

この応募要領（Microsoft word 形式）は建設副産物対策近畿地方連絡協議会ホームページ（下記のURL）の近畿建設リサイクル表彰のコーナーからダウンロードできますのでご利用下さい。

<https://www.kkr.mlit.go.jp/plan/fukusan/index.html>

提出書類		書類の作成者	記入様式	提出部数 提出方法
①推薦一覧		推薦機関	7ページ	■提出部数 ・ 正本1部 ・ 副本（CD-R）1部
②推薦書（1件の候補につき1通ずつ作成し、候補者の概要書を添付して下さい）			8ページ	
③候補者の概要書*	個人・団体・事業所等 【様式】	候補者	9～14 ページ	■提出方法 ・ 郵送又は持参
④活動内容の資料 （写真、パンフレット等）		候補者	任意	■④活動内容の資料 については印刷物又は電子ファイルいずれも可

自薦する場合は、③と④のみを提出して下さい。

※1 提出資料の審査の際、取り組み内容確認のための追加資料の依頼や取り組み現場の視察を行う場合があります。

※2 研究開発に関する取り組みについては、論文等 研究内容が分かるものを添付をお願いします。

(2) 応募期限 令和5年9月25日（月）必着（厳守）

(3) 応募先

建設副産物対策近畿地方連絡協議会事務局

〒540-8586 大阪府大阪市中央区大手前3-1-41 大手前合同庁舎

電話：06-6942-1141（代） FAX：06-6942-7825

近畿地方整備局 企画部 技術調査課 増田（内線3252）・平田（内線3281）

7. 推薦に当たっての注意事項

- ①推薦する際には、必ず事前に候補者の承諾を得てください。
- ②推薦機関は、候補者に法令違反や係争・紛争、その他表彰対象者として相応しくない事項が無いかを確認のうえ推薦して下さい（推薦書のチェック項目をご活用下さい）。
なお、チェック項目が全てクリアされている候補者であっても、審査において受賞者として不適当と判断されることがあります。
- ③過去に受賞した候補者を同じ取り組み内容で繰り返し推薦することはご遠慮下さい。過去受賞時とは別の取り組みであれば推薦可能です。なお、過去に受賞した企業の別の事業所、あるいは過去に受賞した建設会社や共同企業体が行う別の工事等は別の候補者と見なします。
また、過去受賞時の延長線上にある取り組みであっても、その後の拡大・発展が著しく上位賞の候補になると判断した場合は推薦可能です。その場合は、過去受賞時から拡大・発展したポイントについて、候補者の概要書の「3. 本表彰における過去の受賞歴」欄に記載して下さい。
- ④推薦機関は審査結果等については責任を負わないものとします。

8. 審査

建設副産物対策近畿地方連絡協議会に「近畿建設リサイクル表彰審査委員会」を設置し、別紙1に定める「審査基準」に基づき、応募案件の審査を行います。

9. 結果の通知

推薦機関に結果（入賞内定または選外）通知を送付した後、入賞の内定した推薦者に通知を送付します。
※1月中旬（予定）

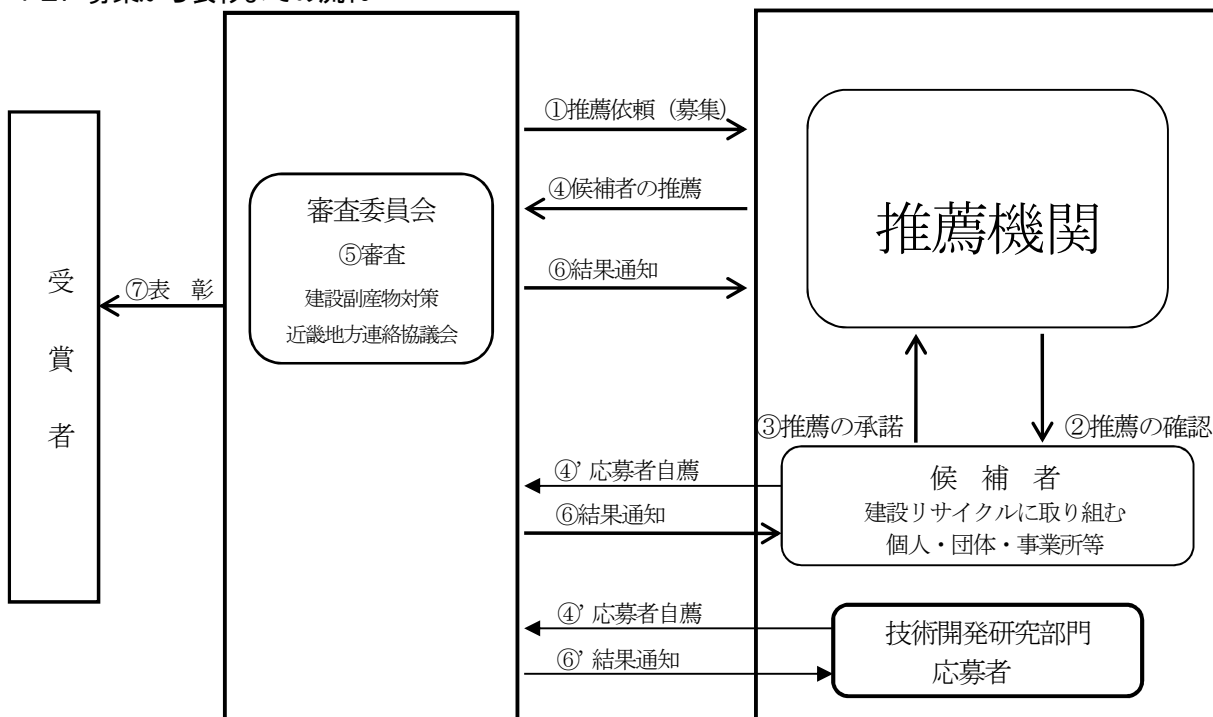
10. 表彰式

令和6年1月下旬（予定・状況により時期の変更や中止の場合もございます。）

11. 個人情報の取り扱いについて

入賞案件は、建設副産物対策近畿地方連絡協議会ホームページ上で紹介致します。
また、入賞者の承諾を得た上で、今後PR等に活用させていただくことがあります。
推薦書、候補の概要書等に記載された個人情報は、本表彰の実施に関連する用途以外には使用いたしません。

12. 募集から表彰までの流れ



<別紙1>

審査基準

- 建設リサイクルの顕著な実績を上げている取り組みを行っている個人、団体、事業者等に対して次の事項で評価します。

評価項目	具体的な評価事項
リサイクル率、量の向上、発生抑制	
継続期間	同一の建設リサイクルに対する取り組みの継続性を評価する
対象品目・量等の実績、活動の効果	対象品目の範囲・対象量の実績、及び取り組みにより得られた効果（発生抑制、省資源・省エネ効果、環境保全効果、温室効果ガスの発生抑制、カーボンニュートラルへの貢献等）を評価する
リサイクルの質の向上	
地域性	近畿の特性を踏まえた活動を評価する
活動頻度	活動頻度を評価する。
独創性・先鞭性	独創性・先鞭性（製品、技術等の開発を含む）を評価する
波及効果、啓発効果	他社の建設リサイクルへの取り組みに与えた効果を評価する
その他評価	当該主体の特性、その他を評価する

※ 評価の対象とならない取り組みの例

- 既に近畿地方で普及し、標準的工法として採用されている技術またはそれに類する技術による取り組み
 - ISO、エコアクション21等既に普及している環境・品質管理基準等による取り組み
 - 3Rに貢献しない取り組み
 - 取り組みによる効果を数値又はその他資料で確認できない取り組み
- 本賞を表彰後、次のような事実が判明した場合、主催者はその表彰を取り消すことができます。
 - 表彰対象が、違法行為などにより社会的に著しい損害を与える場合。
 - 表彰対象が、本制度の趣旨に著しく反する事項に該当すると認められる場合。

1. 発生抑制・搬出抑制部門

住宅・社会資本をつくる時に使う資源の量を少なくすることや廃棄物の発生を少なくすること等をいう。

①設計における工夫

- ・ 建築工事において、設計段階より切土、盛土のバランスを計算し、建築レベルを設定することで、発生土の搬出及び埋戻し材の搬入を抑制
- ・ 残存型枠を採用し、型枠材を削減することでのカーボンニュートラルへの貢献
- ・ 将来の建設計画を見据え、掘削残土を構内に埋め立て用土として運搬・盛土する提案を行ったことにより、建設発生土の場外搬出ゼロを達成
- ・ 現場着手前にBIM/CIM技術を活用し廃棄物の発生抑制（仮設構造を変更して端材や金属スクラップ量を低減等）

②施工方法における工夫

- ・ 地盤改良に伴い発生する予定であった建設汚泥を、先行掘削することで発生抑制
- ・ 橋梁下部工において、分別品目を細分化するなどし、混合廃棄物の発生を抑制
- ・ 建築工事において、先行埋戻し工法を採用し、発生土を抑制
- ・ 狭隘敷地の建築工事において、山留壁を型枠として利用し、発生土の抑制及び型枠材を削減することによるカーボンニュートラルへの貢献
- ・ 駅改良工事において、軌道内に土留め杭を打設する工法を回転杭貫入工法に変更したことにより、汚泥の発生量をゼロに削減
- ・ 車輪等のついた移設可能なコンテナの活用や、工事の進捗状況に応じたコンテナ設置数量・設置場所の変動により、現場分別を実施
- ・ 内空断面を最適化して掘削断面を縮小し、掘削土量を低減
- ・ 従来していた現場納入時の建設資材への包装や梱包などを、実施しない旨を協力会社と調整

③研究開発における工夫

- ・ 建設発生土の品質を改良する技術開発を行い、安価で現場にて行うことで、現場内利用を図り、品質が合わない事による課題を解決
- ・ 建設発生土の工事間利用を推進するため、ストックヤードを整備し、受け入れ基準や品質基準をシステム化して工事間利用を推進
- ・ 再生砕石の利用を推進するため、品質基準を作成し、環境部局と調整し、利用用途を従来のものから〇〇にまで拡大

④啓発活動における工夫

- ・ 再生砕石の利用促進を図るため、インターネット・ホームページにストック状況を品種毎に毎月公開

2. 再使用・再生利用部門

温室効果ガスの発生に配慮しつつ、使用済み製品やその部品等を繰り返し使用することや、廃棄物等を原材料やエネルギー源として有効利用することをいう。

①設計における工夫

- ・ 詳細設計の施工計画書において、泥水式シールドで掘削した泥土を脱水し、土砂と泥水に分離し、土砂を現場内利用及びストックヤードを現場内に設置して工事間利用を図り、泥水を掘削に再利用

②施工方法における工夫

- ・ 現場内で発生したコンクリートガラを袋詰玉石として護岸工事に利用
- ・ 駅ホームの点字タイルを、薄鋼板に貼り付けビス止めで設置する事により、繰り返しの使用を実現
- ・ ウォーター・リサイクル工法の採用により、舗装切断時に発生する汚泥排水を脱水・濾過・中和し、処理水を切断用冷却水として再利用
- ・ 廃瓦を再生砂や単粒瓦として活用
- ・ 海岸、河川、ダムに漂着・堆積した大量の流木を、一般の事業者や個人に無償で提供する仕組みを構築したことにより、台風による流木の再利用化を実現

- ・泥水式シールドでの施工により、掘った土砂を脱水して土砂と泥水に分離し、泥水を掘削に再利用
- ・軟弱地盤対策の杭材料に、100%コンクリート製の再生砕石を使用
- ・道路建設工事で発生したシールド発生土（建設汚泥）の再資源化を図り、大規模土地造成事業の海面埋立用資材として再利用
- ・低炭素型コンクリートを材料としたプレキャスト製品の使用

③研究開発における工夫

- ・県内で発生する杉皮・浄水汚泥・梅加工後の残渣を利用し、吹付工法に用いる土及び吹付助剤を開発

④啓発活動における工夫

- ・学生を対象とした作業所見学会での建設リサイクル活動事例の紹介や、TV出演により建設リサイクルの重要性の解説などを実施

3. 再資源化部門

資源循環と環境負荷への低減を目指し、建設産業廃棄物を再生利用するために再資源化施設で再生することをいう。

① 設計における工夫

- ・建設汚泥の有効利用を図るため、ICT技術を活用し、搬出から再資源化施設へ、また工事間利用先への管理を確実に実施

②施工方法における工夫

- ・建築工事において、分別品目に分別の判断が難しい物を入れる「？」ボックスを常設し、毎日、環境委員、職長が「？」ボックス内の選別を行うことで、現場分別を徹底する仕組みを確立
- ・再生クラッシュラン製造ラインにおいて、人による混合物の除去を徹底し、不純物の少ない商品を製造
- ・伐木材・除根材を処理し、処理されたチップ材を濁水濾過処理のフィルターとして活用、その後更に植生基材吹付として活用
- ・最終処分場までの追跡調査を実施
- ・建設系混合廃棄物を破碎・減容固化し、固形燃料RPFを製造
- ・セメント製造時に発生するCO2を再資源化できる設備を整備したプラントの材料を使用
- ・自然由来の重金属等を含む発生土等を、合理的な対策を行って工事にて再利用

③研究開発における工夫

- ・解体工事から回収された蛍光灯に含まれる水銀を回収する技術を確立
- ・汚泥・溶融スラグ・瓦などを原料とする「無焼成固化技術」によりエコレンガを製造
- ・建設系混合廃棄物等を原料とする高付加価値のフォーミング抑制剤を製造
- ・全国で初めてJISA5022（再生骨材Mを用いたコンクリート）の認証を取得
- ・溶融しにくいアスファルトを含む混合廃材についても、全てを再び混合物用材料とする新しいリサイクル技術を確立
- ・下水溶融スラグと廃瓦を用いた再生路盤材を開発
- ・解体工事由来の木くず等を木質加熱アスファルト舗装へリサイクルする技術を確立
- ・建設廃棄物のリサイクルにおいて、従来のコスト比較ではなく、新材と再生材それぞれで発生する環境負荷を環境影響評価手法により考慮し、コストベースに換算して比較するモデルを開発
- ・河川用に使用するためのコンクリートガラのみを再生砕石を製造
- ・廃石膏ボードから付加価値の高い無水石膏を製造

④啓発活動における工夫

- ・「インターネットによる産業廃棄物処理施設のリアルタイム動画配信」を早期に導入
- ・小学校児童への環境教育の一助となる取組みとして、建設リサイクルに係る出前講座（呼称：リサイクルスタディ）を継続的に実施
- ・全国でも初めてとなる石膏ボードリサイクルの全国組織を設立

※1. 各部門の取り組みを組み合わせて実施した場合の応募も可能です。ただし、推薦部門には主たる部門（1部門のみ）を記載してください。

※2. 各事例は、あくまで事例であり、合致した場合に必ず受賞できるという事ではありません。

令和5年度近畿建設リサイクル表彰制度

推 薦 一 覧

令和5年 月 日

推薦機関名： _____

推薦部門 〔分野〕	候補者名 (連名による候補の場合は、同じマスに名前を列記して下さい)	本表彰制度における 過去の受賞実績
〇〇部門 〔〇〇〕 ※1	「〇〇〇〇工事：□□□建設(株) ※ (民間工事の場合は契約書添付) ※2 〔工事〕 分野での応募の場合は上段に工事名と受注者名を記載して下さい。	
〇〇部門 〔〇〇〕 ※1	「〇〇〇〇工事：□□□建設(株) ※ (民間工事の場合は契約書添付) ※2 〔工事〕 分野での応募の場合は上段に工事名と受注者名を記載して下さい。	

※1 応募部門には、「発生抑制・搬出抑制部門」または「再使用・再生利用部門」、「再資源化部門」を記入し、対象分野には〔一般〕または〔工事〕のどちらかを記載してください。

※推薦（自薦）部門については、事務局の事前確認又は審査委員会の審議において変更を依頼する場合があります。(例：再使用・再生利用部門 → 再資源化部門)

令和5年度近畿建設リサイクル表彰 推 薦 書

令和5年 月 日

建設副産物対策近畿地方連絡協議会 御中

(推薦機関名)

(役職・氏名)

印

建設リサイクル表彰の候補として下記の者を推薦します。

記

1. 候補者名 (連名による候補の場合は、名前を列記して下さい。)

--

2. 推薦部門 [] 部門 [対象分野：一般・工事] ※1

※1 応募部門には「発生抑制・搬出抑制部門」または「再使用・再生利用部門」、「再資源化部門」を記入し、対象分野には [一般] または [工事] のどちらかを選択してください。

3. 推薦機関の連絡先等

推薦機関名		
住所		(〒 —)
記入担当 者※	氏名	
	所属部署	
	電 話	
	F A X	
	E-m a i l	

※この推薦の件に関する連絡・問い合わせ等に対応できる人を記入して下さい。

※電話又はFAX等については、誤りの無いよう正確に記入ください。

4. 推薦機関における候補の選定方法 (例：担当部署又は審査会設置による選定、等)

[]

5. コンプライアンス等に関するチェック

上記候補者の推薦に当たり、以下の事項を確認し、該当する場合は□欄にチェックマーク(✓)を付けて下さい。

○候補者に法令違反の事実はない.....□

○係争・紛争等の問題は無い.....□

○その他受賞者として相応しくない事項は無い.....□

注) これらの項目が全てクリアされている候補者であっても、審査において受賞者として不適当と判断されることがあります。

候補者の概要書

1. 候補者の名称、連絡先等

①候補者名※ ¹ (個人・団体・事業所等の名称)	(ふりがな)
	「〇〇〇工事：□□□建設(株)」 ※ [工事] 分野での応募の場合に記載
	(ふりがな)
	(個人の場合この欄に押印) 印
②代表者役職・氏名 (団体・事業所の場合のみ)	(ふりがな)
	印
③連絡担当者の所属部署・役職・氏名 (団体の場合のみ)	(ふりがな)
④連絡先	住 所：(〒 —) 電 話： F A X： E-mail：

※¹ 表彰状はこの欄に記載された名称により作成しますので、正確にご記入下さい。

(連名による応募の場合、もう1者の名称・連絡先等を記入し各者押印して下さい。3者以上の連名の場合は、記入欄を適宜追加して下さい)

①候補者名※ ¹ (個人・団体・事業所等の名称)	(ふりがな)
	「△△△工事：◇◇◇◇建設(株)」 ※ [工事] 分野での応募の場合に記載
	(ふりがな)
	(個人の場合この欄に押印) 印
②連絡担当者の所属部署・役職・氏名 (団体の場合のみ)	(ふりがな)
③連絡先	住 所：(〒 —) 電 話： F A X： E-mail：

※¹ 表彰状はこの欄に記載された名称により作成しますので、正確にご記入下さい。

2. 建設リサイクル活動の実施内容

今回、推薦を受ける建設リサイクル活動の内容について記入して下さい。なお、記入欄の大きさが足りない場合は、適宜拡げて下さい。

注) 審査では4ページ「審査基準」に示す項目について評価します。これらの項目を評価できるように、以下の記入欄は漏れなくご記入をお願いします。なお、該当しない項目については「該当なし」と記入してください。

①活動テーマ名	今回、推薦を受ける建設リサイクル活動の内容を端的に表すテーマ名を、50文字以内で簡潔に記入して下さい。表彰状はこの欄に記載された名称のとおり作成します。 (記入例:「〇〇に再生材を〇%使用」等)
②活動の概要	活動テーマに沿って、建設リサイクル活動の概要を1,000字程度で記入して下さい※ ² 。また、活動の様子が分かる写真等(デジタルデータまたはプリント)があれば添付して下さい。

※2 過去の受賞者の活動概要(表彰結果発表資料)が建設副産物対策近畿地方連絡協議会(下記のURL)の近畿建設リサイクル表彰のコーナーからダウンロードできますので、記入の際の参考にして下さい。

<https://www.kkr.mlit.go.jp/plan/fukusan/index.html>

③建設リサイクル活動の区分	実施している活動の区分について、下記の該当するものに○を付けて下さい（複数選択可）。下記のリデュース・リユース・リサイクルのどれに該当するか判断が付きにくい場合は、5ページの「取り組みの例」を参考にして下さい。 <table border="1" data-bbox="448 315 1362 439"> <tr> <th>リデュース</th> <th>リユース</th> <th>リサイクル</th> <th>啓発普及等</th> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </table>	リデュース	リユース	リサイクル	啓発普及等																																												
リデュース	リユース	リサイクル	啓発普及等																																														
④活動開始時期・継続年数	建設リサイクル活動を開始した年月及び継続年数を記入して下さい。																																																
⑤対象品目・量等の実績	建設リサイクル活動の対象品目毎に、過去3年間にリデュース・リユースまたはリサイクルした量の実績を記入して下さい（重量、体積、面積の単位は適宜変更可）。 また、それぞれ根拠となる資料を添付してください。 ※〔工事〕分野での応募の場合は、当該工事における対象品目及びその実績（重量、体積、面積、縮減率等）のみを記載してください。 <p><リデュース></p> <table border="1" data-bbox="464 831 1406 1155"> <thead> <tr> <th>年度 品目</th> <th>R02年度</th> <th>R03年度</th> <th>R04年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> </td> <td>t ,m3,m2 縮減率 %</td> <td>t ,m3,m2 縮減率 %</td> <td>t ,m3,m2 縮減率 %</td> </tr> <tr> <td> </td> <td>t ,m3,m2 縮減率 %</td> <td>t ,m3,m2 縮減率 %</td> <td>t ,m3,m2 縮減率 %</td> </tr> <tr> <td> </td> <td>t ,m3,m2 縮減率 %</td> <td>t ,m3,m2 縮減率 %</td> <td>t ,m3,m2 縮減率 %</td> </tr> </tbody> </table> <p>縮減率= 縮減量 / 当初数量 *100</p> <p><リユース></p> <table border="1" data-bbox="464 1234 1406 1559"> <thead> <tr> <th>年度 品目</th> <th>R02年度</th> <th>R03年度</th> <th>R04年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> </td> <td>t ,m3,m2 再使用率 %</td> <td>t ,m3,m2 再使用率 %</td> <td>t ,m3,m2 再使用率 %</td> </tr> <tr> <td> </td> <td>t ,m3,m2 再使用率 %</td> <td>t ,m3,m2 再使用率 %</td> <td>t ,m3,m2 再使用率 %</td> </tr> <tr> <td> </td> <td>t ,m3,m2 再使用率 %</td> <td>t ,m3,m2 再使用率 %</td> <td>t ,m3,m2 再使用率 %</td> </tr> </tbody> </table> <p>再使用(再生利用率)= 再使用(再生利用)量 / 発生量 (もしくは当初使用量) *100</p> <p><リサイクル></p> <table border="1" data-bbox="464 1637 1406 1962"> <thead> <tr> <th>年度 品目</th> <th>R02年度</th> <th>R03年度</th> <th>R04年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> </td> <td>t ,m3,m2 再資源化率 %</td> <td>t ,m3,m2 再資源化率 %</td> <td>t ,m3,m2 再資源化率 %</td> </tr> <tr> <td> </td> <td>t ,m3,m2 再資源化率 %</td> <td>t ,m3,m2 再資源化率 %</td> <td>t ,m3,m2 再資源化率 %</td> </tr> <tr> <td> </td> <td>t ,m3,m2 再資源化率 %</td> <td>t ,m3,m2 再資源化率 %</td> <td>t ,m3,m2 再資源化率 %</td> </tr> </tbody> </table> <p>再資源化率= 再資源化量 / 発生量 *100</p>	年度 品目	R02年度	R03年度	R04年度		t ,m3,m2 縮減率 %	t ,m3,m2 縮減率 %	t ,m3,m2 縮減率 %		t ,m3,m2 縮減率 %	t ,m3,m2 縮減率 %	t ,m3,m2 縮減率 %		t ,m3,m2 縮減率 %	t ,m3,m2 縮減率 %	t ,m3,m2 縮減率 %	年度 品目	R02年度	R03年度	R04年度		t ,m3,m2 再使用率 %	t ,m3,m2 再使用率 %	t ,m3,m2 再使用率 %		t ,m3,m2 再使用率 %	t ,m3,m2 再使用率 %	t ,m3,m2 再使用率 %		t ,m3,m2 再使用率 %	t ,m3,m2 再使用率 %	t ,m3,m2 再使用率 %	年度 品目	R02年度	R03年度	R04年度		t ,m3,m2 再資源化率 %	t ,m3,m2 再資源化率 %	t ,m3,m2 再資源化率 %		t ,m3,m2 再資源化率 %	t ,m3,m2 再資源化率 %	t ,m3,m2 再資源化率 %		t ,m3,m2 再資源化率 %	t ,m3,m2 再資源化率 %	t ,m3,m2 再資源化率 %
年度 品目	R02年度	R03年度	R04年度																																														
	t ,m3,m2 縮減率 %	t ,m3,m2 縮減率 %	t ,m3,m2 縮減率 %																																														
	t ,m3,m2 縮減率 %	t ,m3,m2 縮減率 %	t ,m3,m2 縮減率 %																																														
	t ,m3,m2 縮減率 %	t ,m3,m2 縮減率 %	t ,m3,m2 縮減率 %																																														
年度 品目	R02年度	R03年度	R04年度																																														
	t ,m3,m2 再使用率 %	t ,m3,m2 再使用率 %	t ,m3,m2 再使用率 %																																														
	t ,m3,m2 再使用率 %	t ,m3,m2 再使用率 %	t ,m3,m2 再使用率 %																																														
	t ,m3,m2 再使用率 %	t ,m3,m2 再使用率 %	t ,m3,m2 再使用率 %																																														
年度 品目	R02年度	R03年度	R04年度																																														
	t ,m3,m2 再資源化率 %	t ,m3,m2 再資源化率 %	t ,m3,m2 再資源化率 %																																														
	t ,m3,m2 再資源化率 %	t ,m3,m2 再資源化率 %	t ,m3,m2 再資源化率 %																																														
	t ,m3,m2 再資源化率 %	t ,m3,m2 再資源化率 %	t ,m3,m2 再資源化率 %																																														

<p>⑥活動地域の範囲、他の建設リサイクル活動主体や他地域との連携協力、地域密着性</p>	<p>建設リサイクル活動の実施地域の範囲、建設リサイクル活動の主体、地域や他地域との連携や協力があれば記入してください。また、地域の特性を生かした活動や廃棄物問題を踏まえた活動があればその内容を記入してください。</p>
<p>⑦活動の頻度</p>	<p>建設リサイクル活動の実施頻度を記入して下さい。</p>
<p>⑧独創性・先鞭性</p>	<p>他にあまり例のない独創的な建設リサイクル活動や、他に先駆けた先進的な取り組みを行っている場合は、その内容と理由を記入して下さい。</p>
<p>⑨啓発活動の取り組みや他団体への波及効果</p>	<p>建設リサイクルに関する啓発活動を行っている場合は、実施内容と成果を具体的に記入して下さい。また、その活動が他団体等に与えた波及効果があれば、具体的に記入して下さい。</p>

<p>⑩他の企業等の協力</p>	<p>他の企業等（納入業者・下請け企業・廃棄物処理業者・リサイクル業者等）の協力を得て建設リサイクル活動を行っている場合、以下を記入して下さい。</p> <p>(a) 協力を得ている内容を記入して下さい。</p> <table border="1" data-bbox="453 315 1422 678"> <thead> <tr> <th data-bbox="453 315 735 360">協力企業の業種</th> <th data-bbox="735 315 1422 360">協力を得ている事項</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="453 360 735 521"></td> <td data-bbox="735 360 1422 521"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="453 521 735 678"></td> <td data-bbox="735 521 1422 678"></td> </tr> </tbody> </table> <p>(b) 協力企業における自社発生物のリサイクル状況の把握、並びに協力企業に対する支援等を行っている場合は、その内容を記入して下さい。</p>	協力企業の業種	協力を得ている事項				
協力企業の業種	協力を得ている事項						
<p>⑪その他活動の工夫やアピール点</p>	<p>上記以外に特に工夫・努力している点、アピールしたい点があれば記入して下さい（環境保全効果、カーボンニュートラルへの貢献等を含む）。</p>						

3. 本表彰における過去の受賞歴

過去に本表彰制度で賞を受けたことがある方は、以下をご記入下さい。

受賞年度	賞の種類 〔大賞・奨励賞※〕	受賞した建設リサイクル活動の内容 (該当する方に○を付けて下さい)		過去受賞時の団体が現在と異なる場合、当時の名称を記入して下さい
		(A) 今回の応募内容に関連したテーマの活動	(B) 今回の応募内容とは別テーマの活動	

※過年度までの会長賞・優秀賞を含む。

上記で (A) に○を付けた方は、前回受賞時から進展したポイント（例：活動内容の広がり、活動レベルの向上、建設リサイクルの実績量の増加、活動地域の拡大等）について、下記の例を参考に具体的に記入下さい。

(記入例)

	過去（年度）受賞時の活動内容	今回推薦を受ける活動内容
建設リサイクル活動の内容(進展したポイントが分かるように対比)		
建設リサイクル対象品目について		
建設リサイクルの実績量について		
活動の実施地域について		
活動の参加者数について		
活動の質的な向上について		
上記以外の進展事項、アピールポイント		